

未来社会創造事業 探索加速型
「超スマート社会の実現」領域
年次報告書(探索研究)

令和元年度 研究開発年次報告書

令和元年度採択研究開発代表者

[研究開発代表者名：野田 五十樹]

[国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター・総括研究主幹]

[研究開発課題名：社会シミュレーション・分析技術によるモビリティサービス設計]

実施期間：令和元年 11 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日

§1. 研究開発実施体制

(1) 産総研グループ(産業技術総合研究所)

- 1 研究開発代表者:野田 五十樹 (産業技術総合研究所人工知能研究センター、総括研究主幹)
- 2 研究項目
 - ・ゲーム理論的枠組み構築
 - ・行動選択のモデル化

(2) 東大グループ(東京大学)

- 1 主たる共同研究者:和泉 潔 (東京大学大学院工学系研究科、教授)
- 2 研究項目
 - ・金融市場による枠組み構築
 - ・都市交通 OD 推定

(3) 名大グループ(名古屋大学)

- 1 主たる共同研究者:金森 亮 (名古屋大学未来社会創造機構、特任准教授)
- 2 研究項目
 - ・価格感度モデル化

§2. 研究開発実施の概要

MaaS マネージメントデザイン技術では、多数のステークホルダがかかわるモビリティサービスを、異なる目的関数をもつエージェント群の相互作用とみなし、ゲーム理論やマーケットデザインの枠組みでとらえる形で問題整理をすすめた。それに基づき、人工市場を通した需要・供給調整や異なるサービス形態間の競争を持続性の観点などから評価する枠組みの構築に着手した。

MaaS モデリング技術については、モビリティサービスの利用実績や、交通状況調査からの人の移動パタン分析の手法の確立に着手し、実データやテストデータによりその機能を検証した。さらに、静岡市で官民連携でモビリティサービスを検討している「しずおか MaaS」に技術会員として参画し、2019 年度に実施された MaaS 実証実験のデータ分析など、来年度以降の密な連携体制を構築した。